

小さなものに目を向けるーカエル飼育記・番外編ー

動物応用科学科3年 八木 愛

昆虫の顔をまじまじと眺めたことがあるだろうか？上からとか横からではなく、正面から。

私は以前の「Observation」で、飼育しているカエルの紹介をした。あれから少しずつ大きくなり、今も元気に暮らしており、可愛さにもますます磨きがかかってきた。そこで、今回も再びカエル自慢をしようと思っていたのだが、そこへひょっこり現れたダークホースがいる。それは、コオロギである。

寒くなってからはハエなどが獲れなくなってきたためカエルの餌をコオロギに切り替え、それを爬虫類ショップで購入している。5mmくらいのコオロギが100匹とか200匹とかいう数でやってくるから、なんだかうじゃうじゃしていて気持ちの良いものではない。初めは「カエルの餌」としか考えておらず、とりあえず大きい水槽に餌と一緒に入れておき、必要な時に水槽から取り出してカエルにあげるようにしていた。

しかし、あるとき急に、「コオロギってどんな顔をしているんだろう？」と思い、正面から、目と目を合わせてみたくなったのだ。正直言って、昆虫なんて正面から見たことはなかった。水槽を机の上に置いて、自分はやがんでコオロギに視線の高さを合わせてみる。

逆三角形型の顔に大きい黒い目、ピコピコ動く触覚にずんぐりした体型。…はっきり言

って、とても可愛らしい。哺乳類や両生類とはまた違う感じである。そのコオロギはどうやら湿度が嫌いであるらしいため、水を溜めておいておくのではなく毎日霧吹きをして水を与えているのだが、霧吹きをした後に隠れ家からいそいそと出てきて水を飲む姿は何とも言えない。

普段目もくれなかったり、観察対象としていないような生き物も、じっと観察してみると意外なことに気づいたりする。今更なことであるが、動物学の基本は「生き物をよく見ること」であると思う。今まで、あまり昆虫には興味を持っていなかったのだが、今年はずっと目を向けていきたいな、と思わせる出来事であった。

何だか、一部の人からは気持ち悪がられそうな内容を書いてしまったが、是非一度コオロギを正面から観察してほしいと思う。今なら研究室にたくさんいるし、脱走兵も冷蔵庫の下にいるので鳴き声までも聞けるであろう。